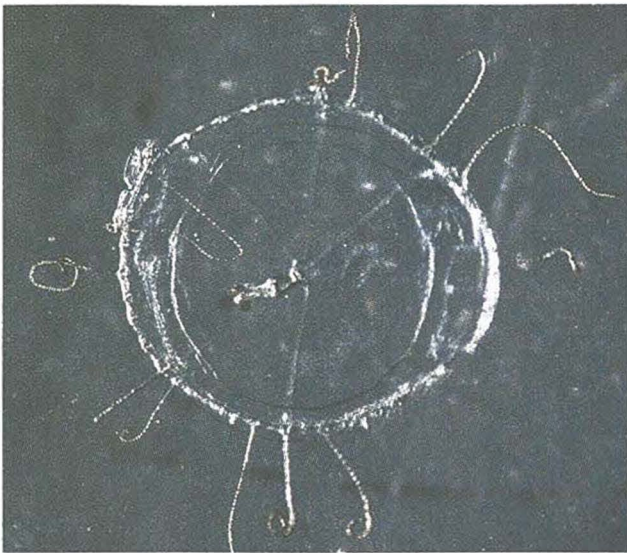


イチメガサクラゲ



△
大人になりかけのイチメガサクラゲ (河村真理子さん撮影)

久保田 信

42



このクラゲはイチメガサクラゲだ。成長すると、昔の女性がかぶったという風流な市女笠(いちめがさ)の形になるが、この個体はまだ未成熟

なので、傘のてっぺんは、ほんのちよっとだけしか突き出していない。直径も約4ミリと小さいが、8ミリほどまで成長する。
本州以南に普通の種類であるが、大きく育った個体は田辺湾でまだ採れたことがない。

傘の縁には感覚器が規則正しく配置されており、その数は放射水管の2倍である。これで体のバランスなどを取っているわけだ。餌を捕る触手も16あるので、感覚器の数と同じだ。両者は交互に配置されている。画像の個体は採集のため、触手のいくつかは傷んでいる。傘も少し縮んでしまった。

触手の付け根に膨らみがないのが、このクラゲの仲間の特徴である。こういった形態のクラゲはポリプ世代がなく、受精卵から直接にクラゲが成長する。いわば、われわれと同じような成長方法を取る。この個体は、11時の方向にある放射水管の傘縁付近に、丸い小さな生殖巣ができているので、やや大人になりかけているのだらう。

このようなクラゲは外洋性なので概して飼育が難しく、実験室では長く生きない。生活史も、詳しくは突き止められていないクラゲである。

(京都大学准教授)